

カービュー マーケットウォッチ (2010年4月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で8カ月連続で前年を上回る!

10年3月順位	10年2月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	35,546
2	(2)	→	フィット	ホンダ	23,076
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	15,914
4	(5)	↑	カローラ	トヨタ	14,416
5	(4)	↓	パッソ	トヨタ	13,152
6	(10)	↑	ノート	日産	10,792
7	(6)	↓	セレナ	日産	10,688
8	(8)	→	ステップワゴン	ホンダ	10,598
9	(7)	↓	フリード	ホンダ	10,335
10	(13)	↑	デミオ	マツダ	9,835
11	(15)	↑	キューブ	日産	9,412
12	(9)	↓	ヴォクシー	トヨタ	9,077
13	(11)	↓	ウィッシュ	トヨタ	8,456
14	(18)	↑	ティーダ	日産	8,274
15	(12)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	7,933
16	(14)	↓	マークX	トヨタ	7,635
17	(20)	↑	クラウン	トヨタ	7,557
18	(16)	↓	エスティマ	トヨタ	7,416
19	(25)	↑	SAI	トヨタ	6,968
20	(19)	↓	ラクティス	トヨタ	6,736

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で8カ月連続で前年を上回る！

軽乗用車は16カ月ぶり、輸入乗用車は5カ月連続のプラス

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した3月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体では58万337台で、前年同月比125.2%と8カ月連続で前年を上回り、5カ月連続の2ケタのプラスとなった。3/5ナンバーの登録車（普通乗用車/小型乗用車）はそれぞれ19万8304台/20万4522台、前年同月比170.7%/120.2%と、ともに9カ月/8カ月連続のプラスなのはもちろん、軽乗用車が17万7511台で100.2%と16カ月ぶりに前年を上回り、輸入乗用車も2万4152台で110.3%と5カ月連続プラスと、全部門とも売れ行き好調だ。まだ顕著な経済危機に瀕していなかった一昨年3月の61万3663台と比べると、94.6%でマイナスだが、下げ幅は月を追うごとに減少しており、こと乗用車販売に限っては先行きは明るいといえそうだ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は37万8675台で、前年同月比143.2%（日産デュアリス輸入分含む）。一昨年3月比でも98.3%まで回復している。メーカー合計では、稼ぎ頭の「スイフト」が低調なスズキ以外は前年を上回り、ダイハツの102.0%を除き、前年同月比は2ケタ増となっている。月間ランキングでは「トヨタ プリウス」、「ホンダ フィット」、「トヨタ ヴィッツ」のトップ3は3カ月連続で変動はなく、プリウス、フィットは10カ月連続の1、2位。特にプリウスは3万5546台と、単月では過去最高を記録した。

軽自動車は貨物車を含めた全体でも23万1196台で前年同月比103.7%となり、3カ月連続のプラス。懸案だった軽乗用車部門がプラスに転じたが、このまま回復基調となるのか注目される。

輸入車は特に海外メーカー製乗用車が2万3292台で前年同月比112.8%と好調。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が6252台で3カ月連続トップ。2位は4684台のメルセデス・ベンツ、3位は3763台のBMW（ミニを除く）、4位は2253台のアウディで順位に変動はないが、BMW以外は前年同月比2ケタのプラス。6位ボルボ 960台、7位フィアット 683台、8位プジョー 636台、9位ルノー 435台の第2グループも、前年同月比はそれぞれ115.7%、156.3%、114.2%、223.1%と、軒並み2ケタを超える増加傾向となった。

■ココも気になる！その1

09年度の国内販売で初の2位を奪取したホンダ！

昨年、軽乗用車を含めた全乗用車のメーカー合計で、唯一前年を上回ったホンダ。08年に国産3/5ナンバー乗用車の年間トップとなった「フィット」が年間ランキング3位と堅調に売れたほか、08年5月デビューの「フリード」も10位、そして何よりハイブリッドカーブームの火付け役となった09年登場の「インサイト」が9万3283台で年間5位と大ヒット。軽乗用車部門は前年比80.8%と振るわなかったが、全体では59万3945台で前年比101.6%と2年連

続のプラスとなった。この勢いは今年に入っても変わらず、09年4月～10年3月の09年度では貨物車を含めた国内総販売台数が66万2323台、前年同期比114.2%となり、日産を抜いて初の2位となった。今年2月に投入したハイブリッドスポーツ、「CR-Z」も好調で、販売台数は2月1461台、3月2446台と月間販売目標1000台を軽くクリア。すでに受注は1万台を超えており、まだまだ快進撃が続きそうだ。

ただ10年度の販売予想は65万台と固めの見通し。これは新車補助金制度が9月末で終了することで、これまでの反動で下半期の落ち込みを織り込んだものと見られる。しかしホンダは新車補助金制度が終わる秋にはハイブリッドカー第3弾として、「フィット ハイブリッド」を投入する予定。基幹となるハイブリッドシステムはインサイトと同タイプになりそうだが、通常のガソリンエンジン車との価格差を13万～15万円に抑えることを目標に開発を進めているという。

昨年8月以降、登録車を中心に回復基調となった国内クルマ販売だが、新車補助金制度をはじめとする公的な支援策が効果的だったことは疑いのないところ。この回復基調を本物にするには意欲的な新車攻勢は欠かせない。このところニューモデルを確実にヒットさせているホンダのウデの見せどころだ。

■ココも気になる！その2

明暗分かれた輸入車市場。アウディ、フィアットが大躍進

09年度（09年4月～10年3月）の輸入車販売は国産車市場同様に大苦戦。海外メーカー製乗用車のみでは16万4835台で、前年同期比94.1%にとどまった。これで4年連続のマイナスだが、昨年の1～12月計では17.2%減だったことを考えれば、今年に入ってから回復基調は確かなものといえそうだ。そんな輸入車市場で過去最高を記録したブランドがある。それがアウディとフィアットだ。

アウディは1万6978台で、前年同期比108.8%。年度累計ランキング4位で前年同期と変わらずだが、89年度に記録した1万6293台を上回った。さらにシェアは08年度の8.9%から10.3%にアップし、2年連続で過去最高販売台数を更新した。またフィアットは4759台で、前年同期比123.7%。年度累計ランキング7位となり、シェアも4.0%（08年度は3.6%）にアップ。これで2年連続の年間販売台数新記録となった。これまで輸入車市場を牽引してきたトップ3のVW、BMW（ミニ除く）、メルセデス・ベンツが、VWの前年同期比100.0%を除き、92.9%、87.3%と厳しい状況だっただけに、アウディ、フィアットの好調ぶりは目を見張るものがある。

ともに投入したニューモデルが好調だったことに加え、国産車メインの公的な支援策に対応したテコ入れ策を素早く実施したことも効果的だった。アウディは10年度燃費基準達成モデルを輸入車ブランド最多となる24モデルをラインナップさせ、フィアットはいち早く独自の「新車購入支援金」の提供をスタートさせた。これまでブランドイメージを強調した販売施策が主力だった輸入車市場でも、市場状況に即応した拡販策により、まだまだシェア拡大のチャンスはあることの証明といえそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報担当 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
